

金星の科学分科会

高橋幸弘、中村正人、渡部重十

本分科会は2001年7月に承認いただき、現在は5月の合同学会で第一回の会合を持つための準備を進めている。本分科会の大きな目標として、宇宙科学研究所を中心に現在進められている金星探査ミッションを、より成果の多いものにしていくことを掲げている。本ミッションは大気のスーパーローテーションやメソスケールの気象現象を調べることを主な目的にしているが、火山活動や雷放電、更に電離圏、プラズマ大気流出など、金星の表層から宇宙空間に至る広範な領域での現象を総合的に捕らえることも目指している。これらの現象は相互に影響していると考えられ、金星という一つの惑星圏を理解するためには、個々の現象の科学的位置付けと、それらの結びつきを整理する必要がある。一方、直接探査は有力な研究手法であるが、観測器の重量、観測期間などに制限があり、地上望遠鏡との相補的な観測を実施することではじめて、その価値を何倍にも高めることができる。

こうした目標を達成するためには、大気力学/化学、プラズマ（電離圏）、固体惑星、地上観測（天文）、大気電気などの専門家が一つの研究グループを形成し、継続的な議論を通して、科学的/技術的課題を整理しそれを解決するための戦略を練っていかねばならない。そのための方法として、本分科会では他の学会の関連する研究者に呼びかけ、各学会の中で、本分科会に相当する、公式に承認された分科会或いは連絡会を設置していただくよう働きかけてきた。これまでのところ、惑星科学会、気象学会、天文学会等で前向きに検討が進められており、近く正式な形で分科会（連絡会）を発足できそうな運びとなってきた。本分科会の特徴の一つは、これら4学会が全く対等な立場で参加する点にあり、これが金星という対象を多角的に研究するための一つの研究形態として提案できればと希望している。今後は、会合やHPによる情報交換と平行して、総合的に観測戦略を立案し、また複数学会の会員が気軽に議論に参加できる場所を提供していきたいと考えている。